

生徒会交流会

～ 交流を通して多くのことを学びました ～

本校の生徒会は、震災後、全国の多くの団体と交流を行っています。多くの交流会を通して、生徒たちの視野が広がりました。まだまだ大変な日々が続いていますが、全国から支援を頂き、平穏な生活を送ることができるようになってきました。感謝の心を忘れず、また、震災を風化させないために、これからも生徒会は一生懸命に活動を行っていきます。

- 7月30日(木) 比叡山高校(滋賀県) 来校 【学校紹介・震災体験発表】
- 7月31日(金) 連携中学校(志津川中, 歌津中)との交流会
- 8月4日(火) 福岡県立小倉東高校 来校 【震災体験発表, モアイ缶バッジの作成体験】
※毎年、缶バッジの収益金を寄付していただいています。
- 8月5日(水)～7日(金) 大津市訪問 【比叡山高校生・地域住民との交流】
- 9月5日(土) 東京都立総合工科高校 来校 【学校紹介, 旭ヶ浦祭案内】
※平成23年度、東京都から派遣で本校勤務をいただいた佐々木純先生の現在の勤務校。
- 10月7日(水) 松江市立女子高校(島根県) 来校 【学校紹介, 震災体験発表】
- 11月14日(土) 兵庫県立篠山東雲高校 来校 【学校紹介, 震災体験発表】
※篠山東雲高校で栽培したグリーンカーテンの種が贈呈されました。
- 1月7日(木) 福岡県立修猷館高校 ホテル観洋にて 【震災体験発表】



福岡県立小倉東高校との交流会の後に、記念撮影をしました。毎年のように、小倉東高校は来校してくれています。南三陸モアイ化計画の存在を知り、缶バッジの販売を北九州市で行うなど、継続した支援を行ってくれています。



兵庫県立篠山東雲高校との交流会の様子です。兵庫県は、20年ほど前に阪神大震災を経験しており、震災経験を共有しました。全国の人たちの言葉から、それまで考えてもみなかったことに気づかされるが多々あります。とても有意義な交流会となりました。

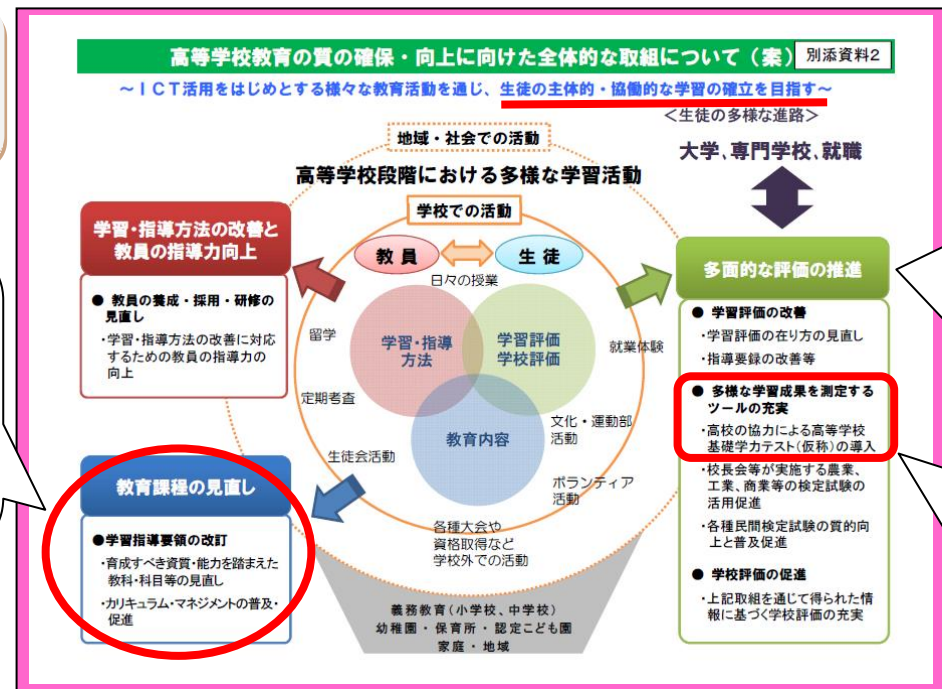
学びが変わる?!

～ アクティブラーニングについて学んできました ～

現在、文部科学省が行っている「高大接続改革」によって、今後、高校や大学での“学び”が変わります。答申では、「先を見通すことの難しい時代において、生涯を通じて不断に学び、考え、予想外の事態を乗り越えながら、自らの人生を切り拓き、より良い社会づくりに貢献していくことのできる人間を育てることが必要」とあります。つまり、これからの学校の大きな役割は、生徒に知識をつけさせることに加え、生徒自らが主体的に学ぶことができるように支援をすることがより重要視されています。

「アクティブラーニング (Active Learning)」とは、「学習者が主体性を持って能動的に思考する、参加型の学習」のことです。アクティブラーニングについて学ぶことは、教員や生徒にとって大変重要なことだと考えます。先日、そのアクティブラーニングについて先進的な取り組みを行っている岩手県立大野高校へ視察に行ってきました。「高大接続改革」の概要や学校視察の報告を載せます。ご覧下さい。

高大接続改革・高校での取り組み(概要)



生徒の主体的・協働的な学習の確立を目指す学習法等の改善。(アクティブラーニングはその代表例。)

多面的評価により授業改善を行う。生徒の多様な進路の実現に活用する。(ただし、評価の扱い方等については検討中。)

新しく平成31年度から、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」が導入予定。(現在の中学1年生から実施の予定。)

文科省 HP 高大接続システム改革会議「中間まとめ」(平成27年9月15日)

学校視察(大野高校)



岩手県立大野高校は、岩手県北の小さな高校でした。生徒は純朴であり進路は就職から大学進学まで多様であるなど、本校と同じような学校でした。どの授業においても、生徒同士の学び合いの時間を設けており、全ての生徒が主体的に授業に参加していました。適切な課題の提示と、生徒と教員の適切な関わりによって、最高の授業を行っていたことに感動しました。

英語の授業の座席は、毎授業、教師がホワイトボードを使って指示をする。円滑にペア学習を進めるための工夫である。